

## 言語理論と日本語

阿部 泰明

私は言語学の中でも理論言語学と呼ばれる領域で研究を行ってきている。ここで言う理論言語学とは、生成文法(Generative Grammar)と呼ばれる現代言語学での最も大きな潮流であり、つぎのような仮説に基づいた理論のことであり、人間言語の仕組みにおいては、生得的に備わっている言語知識(普遍文法UG)と経験(言語資料との接触)の相互作用の結果から個別言語の知識(文法)が形成される。

日本語は発音、語順、格表示の有無などでは英語などと大きく異なっているが、文法の根幹をなす構文法の仕組みにおいてはかなりの部分で自然言語に共通の特徴を有していることがわかってきている。この発見はある程度抽象化された理論の枠組みの中で初めて達成されるもので、表面的な観察だけでは深い理解が得られない。そのため、理論言語学では抽象化の仕組みを使用するが、これが一部の学生には「数学的」に写るらしい。

博士論文(University of Massachusetts, Amherst, 1985年)においては、モンタギュー文法の枠組みを使用し、とりわけその統語部門の構成基盤であるCategorial Grammarの仕組みに数学で用いられる「関数の合成(function composition)」

## 私の研究

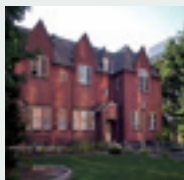
あべやすあき  
人文学部日本文学文化学教授

専攻分野は「言語学(理論言語学)」、日本語研究、長期研究テーマは「普遍文法と日本語の構造」、短期研究テーマは「日本語の中心化現象」、主な担当科目は「日本語学」(1997年、共修)、「言語学入門」(大修館書店、1999年、共著)

の手法を付加することで、対照言語学的に興味深い4つの言語パターン(存在に説明を与える試みを行った。これらの言語パターンは二つの軸に見られる対立に依拠しており、それはSOV型とSVO型の違い(とそれに付随した形態的諸特徴)と使役文における統語的節融合の強さと弱さである。

統語的現象に関する研究を進める一方で、統語構造と意味構造の境界領域に関する研究も行っている。言語研究を始めた初期の段階から強い興味を抱いていた照応現象は、論理的量子と束縛変項の関係、指示表現と照応表現を繋ぐ表示の理論(指示指標の理論)、事象意味論、テンスとアスペクトなどの研究と深く関係しており、いわゆる論理表示(LF)に関わる問題一般に興味がある。

最近ではかつて研究を行ったことのあるゼロ代名詞の解釈の問題を再度掘り起こしながら、新たな展開を探っている。



University of Massachusetts, Amherst, South College

## NBSで考える金融システムの未来

山下 忠康

私は「南山ビジネススクール(NBS)」で、2006年度から実務家教員としてコーポレート・ファイナンスや金融システムを担当しています。

「南山ビジネススクール」は2006年4月にスタートした南山で一番新しい専門職大学院ですが、その教壇に立たせていただいていることは、やる気に満ちたバラエティに富む学生が多数集まっていることです。そして、社会人学生は「実行」能力の高さの面では非常に優れています。たとえば、「問題点(issure)の発見」→「解決策(solution)の提示」→「解決策の実行(implementation)」というサイクルを繰り返しながら行う継続的改善活動はみずから自信があっても、「問題点発見」の手法や具体的「解決策」事例など、知識の面で弱点を持っていることがあります。このような場合、自分の頭で問題解決策を生み出す徹底的な訓練を「南山ビジネススクール」で受ければ、ビジネス現場の実行能力と獲得した知識が結び付き、ビジネス上の強い武器となるでしょう。



## 私のクラス

やましたただやす  
ビジネス研究科ビジネス専攻准教授

専攻分野は「コーポレート・ファイナンス」「金融システム」、長期研究テーマは「銀行・企業間関係に関する研究」、短期研究テーマは「銀行による法的資産評価の実践」、主な担当科目は「ファイナンス基礎」「金融システム」「応用コーポレート・ファイナンス」「プロジェクト研究1」

「プロジェクト研究1」

さて、金融システムという授業では、市場や金融機関だけでなく、制度や慣習なども含めた領域に関して議論を行います。そして、議論の中心テーマは「金融システムの未来」です。未来については自らの想像力を働かせるしかありませんが、基本的には金融システムの歴史の変遷を一通り学習した後、未来について自由なクラス討議(毎年10人前後)を行います。ここでは、金融関係だけでなく製造業などに勤務するなど様々なバックグラウンドをもった学生たちが自分たちの経験や知識を駆使して、できる限り論理的に未来を予測しようとする。学生の議論を通じて感じることが、金融システムは金融技術などの枝葉末節の部分では大きく変化しているようにみえますが、本質的な部分においてはほとんど変化していないことです。私は金融システムの根幹である「信用」自体は未来においても変化しない普遍の存在であると確信しています。この議論の続きは、社会人学生のための知的空間「NBS」で一緒にに行いましょう。

## News

### 南山大学・韓国西江大学校相互協力協定締結

本学と韓国の西江大学校との間で相互協力協定が締結され、3月27日、本学において調印式が行われた。西江大学校はソウル中心部に位置するイエス会系の私立総合大学で、韓国における代表的なカトリック系大学である。



また西江大学校とは、これに先行して2月26日に両校ロースクール間の交流協定も締結している。

### 中華人民共和国国家外国専門家局訪日団ならびに同国国際人材交流協会代表本学表敬訪問

3月26日、中華人民共和国国家外国専門家局訪日団ならびに同国国際人材交流協会代表が本学を表敬訪問された。今回の訪問は、本学との長年にわたる交流がきっかけで実現したもので、訪日団ならびに代表は学長との歓談の後、学内を見学された。



### 就職支援・キャリアサポートプログラム

本学では、主に1・2年次を対象としたキャリアサポートプログラム、2～4年次を対象としたインターンシップ、3・4年次を対象とした就職支援プログラムの3つの支援体制を柱に学生のキャリア形成をサポートしている。2009年度も各プログラムをぜひ積極的に活用していただきたい。

#### キャリアサポートプログラム(予定)

7/7	フレッシュアップセミナー(ビジネスマナー1)(名古屋・瀬戸キャンパス)
7/8	フレッシュアップセミナー(ビジネスマナー2)(名古屋・瀬戸キャンパス)
7/15	フレッシュアップセミナー(ビジネスマナー2)(名古屋・瀬戸キャンパス)

#### 就職支援プログラム(予定)

7/1	就職講座4「筆記試験対策」(名古屋キャンパス)
7/8	就職講座4「筆記試験対策」(瀬戸キャンパス)
7/7-11	グループ選考対策講座(名古屋キャンパス)
7/15	エライインセミナー(名古屋キャンパス)
9/23	第2回就職ガイダンス(名古屋・瀬戸キャンパス)
9/30	就職講座5「自己PR」(名古屋キャンパス)
10/7	就職講座5「自己PR」(瀬戸キャンパス)

### 2009年度教員免許更新講習

2009年4月からの教員免許更新制度導入に合わせて、本学では「教員免許更新講習」を開講した。6月より名古屋・瀬戸両キャンパス

### 名古屋アメリカ研究夏期セミナー(NASSS 2009)

今年で3年目を迎える「名古屋アメリカ研究夏期セミナー(Nagoya American Studies Summer Seminars:通称NASSS)」が、2009年7月25日から28日にかけて開催される。今年度は年次テーマ「アメリカニズムと社会的公正(Americanism and Social Justice)」とし、研究者が集う「専門家会議」と国内外大学院生が集う「国際大学院生セミナー」が予定されている。

問合せ先: 南山大学アメリカ研究センター-NASSS事務局  
E-mail: nasss-jimu@nanzan-u.ac.jp  
http://www.nanzan-u.ac.jp/AMERICA/2009\_seminar.html

## Information

### ◆ 2008年度学長表彰

卒業予定者の品行方正で、学業あるいは課外活動で特に優れた成績を修めた学生、または特に顕著な善行が在学中継続した学生31名に、その努力と栄誉を称え、3月19日、学長から表彰盾と副賞が手渡された。

【人文学部】	7名	【法学部】	3名
【外国語学部】	7名	【総合政策学部】	4名
【経済学部】	3名	【数理情報学部】	4名
【経営学部】	3名		

### ◆ 2009年度学部長表彰

年度ごとに品行方正で学業に優れた成績を修めた学生を表彰する学部長表彰。今回は124名が受賞した。受賞者の昨年1年間の努力を称え、表彰式が人文学部は6月10日、外国語学部・経済学部・経営学部・法学部・数理情報学部は5月13日、総合政策学部は5月6日に行われた。

【人文学部】	21名	【法学部】	15名
【外国語学部】	24名	【総合政策学部】	21名
【経済学部】	15名	【数理情報学部】	14名
【経営学部】	14名		

### ◆ 名誉教授称号授与

今春退職された外国語学部岡部朗一教授、富野幹雄教授、経営学部村本正生教授に対し、その功績を称え名誉教授の称号を授与した。授与式は4月2日(岡部朗一氏・富野幹雄氏)、6日(村本正生氏)学長室において行われた。



### ◆ 学位

小市 俊悟 講師 情報理工学部システム創成工学科  
博士(情報理工学) 東京大学  
2008年3月24日付

### ◆ カルマノ学長ストラップ誕生

ミカエル・カルマノ学長のオリジナルストラップが完成し、名古屋・瀬戸両キャンパスで販売されている。

販売場所: 名古屋キャンパス コバン2階 NES(ネス) 瀬戸キャンパス E棟学生会館 丸善  
販売価格: 1個 500円(税込)



## 南山大学

発行 学長室  
〒466-8673 名古屋市長和区山里町18  
Phone: 052-832-3113(直通)  
E-mail: gaku-koho@nanzan.ac.jp  
http://www.nanzan-u.ac.jp/

## 南山大学広報誌

# NANZAN bulletin vol.169

2009.6.30



### ◆ 退職

2009年3月31日付  
●人文学部  
教授 熊木 建 郎  
教授 松原眞志夫  
講師 松 岡 敏 恵  
●外国語学部  
教授 岡 部 朗 一  
教授 富 野 幹 雄  
●経済学部  
教授 野 村 信 廣  
准教授 吉 本 佳 生  
●経営学部  
教授 村 本 正 生  
●法学部  
教授 伊 藤 高 義

### ◆ 2009年度新任用教育職員

●人文学部  
教授 終 暁 生(専攻分野: 室書学(旧抄本))  
准教授 松 根 伸 治(専攻分野: 西洋哲学史)  
准教授 濱 田 琢 司(専攻分野: 文化地理学、地域・民俗文化論、工芸史)  
講師 畑 山 知 子(専攻分野: 健康科学、運動医学)  
●外国語学部  
教授 石 田 訓 夫(専攻分野: 中国、東洋政治)  
准教授 太 田 達 也(専攻分野: ドイツ語教育、外国語教育、応用言語学、近代ドイツ文学)  
准教授 大 竹 弘 二(専攻分野: 現代ドイツ政治理論、政治思想史)  
講師 大 井 由 紀(専攻分野: 移民研究、アジア系アメリカ研究、グローバル・コミュニケーション研究)  
講師 BONN, Suzanne(専攻分野: 英語教育)  
講師 HEWER, Robert(専攻分野: 英語教育)  
講師 MUNSI, Roger Vanzila(専攻分野: 文化人類学、歴史民俗学、宗教、社会学)

●経済学部  
准教授 宮 崎 浩 伸(専攻分野: 経済統計)  
●法学部  
准教授 玉 井 利 幸(専攻分野: 商法)  
●総合政策学部  
准教授 星 野 昌 裕(専攻分野: 現代中国政治、東アジア国際関係)  
●情報理工学部  
教授 腰 塚 武 志(専攻分野: 都市工学、都市のDR)  
教授 小 藤 俊 幸(専攻分野: 数値解析、応用数学)  
准教授 吉 田 敦(専攻分野: ソフトウェア工学)  
講師 池 田 亮 一(専攻分野: 金融経済学、デリバティブ理論)  
講師 横 山 哲 郎(専攻分野: 計算機科学)

●法務研究科  
教授 久 志 本 修 一(専攻分野: 民法学)  
教授 倉 持 孝 司(専攻分野: 憲法)  
●国際地域文化研究科  
GP嘱託講師  
YASUE, Sheri Love

### ◆ 連載「南山学園の歩み」

4月1日より中部経済新聞において、南山学園の軌跡に焦点を当てた長期連載「人間の尊厳のためにー南山学園の歩みー」がスタートした。

### 寄付者ご芳名

「南山大学教育研究支援」へのご協力に感謝いたします。  
米日財団東京事務所 様  
村 瀬 元 武 様  
村 瀬 和 代 様  
八 田 耕 吉 様(恒温暖機)

## Special events

3.20

### 卒業式

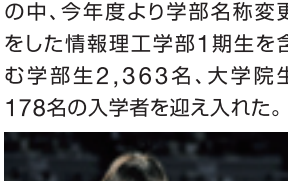
2008年度卒業式が3月20日、日本ガイシホールにおいて行われた。2,213名(学部生2,053名、大学院生160名)の卒業生を社会へ送り出した。



4.2-3-6-7-8

### フレッシュマン祭

4月2日・3日、6～8日、名古屋・瀬戸両キャンパスにおいて、新入生歓迎イベント「フレッシュマン祭」が開催され、ガイダンスとともにクラブ・サークルの勧誘が行われた。また、今年度第50回を迎えた上南戦をテーマに「上南戦フロア」が開設された。



4.8

### 南山留学フェア

4月8日、留学を希望する日本人学生を対象に南山留学フェアが開催された。本学の学生交流協定校のうち、23大学からの留学生(外国人留学生別科生)32名が各ブースに分かれ、協定校の様子や町の雰囲気を紹介した。



2009年度秋学期留学ガイダンス/フェア  
2009年9月23日 14:00～16:00  
派遣留学プログラム応募説明会(名古屋・瀬戸)  
2009年9月30日 14:00～16:00  
南山留学フェア(名古屋)

卒業と同時にフラメンコを始める。舞台出演を重ねながら各地の文化センター等で講師を務め、2006年よりフラメンコダンサーの森真美氏に師事。2児の子育ての傍ら、各種イベントに出演するなど活躍中。

### 南山のDNA DNA DNA DNA

### 南山で出会った、人生を変えた言葉たち

花井真里子 経営学部経営学科 1998年卒業

各方面で活躍する本学卒業生をリレー形式で紹介していくプレティン版「南山のDNA」シリーズ、第5回となる今回は、フラメンコダンサーとして活躍の花井真里子さんです。私は南山出身の両親のもと、大学近く生まれ育ったので、幼い頃から南山は身近な存在でした。一旦他の大学に入りながら再び南山を受験したのも、そんな原風景によるところが大きかったと思います。

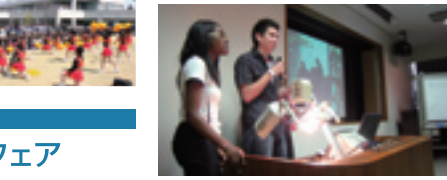
私は今、2人の子育てをしながらフラメンコの踊り手として活動しています。大学のスペイン語の授業で資料を読み、ずっと心に残っていたある踊り手の「悲しみを涙でなく体で表す」という言葉に導かれ、フラメンコを始めたのは旅行会社に就職してすぐのことでした。歌、踊り、ギターが生み出す強烈なリズムに夢中になり、練習を重ねるうちに気づけは教える立場になっていました。

転機が訪れたのは、本場スペイン・セビージャ出身のある踊り手と共演したときのこと。彼の踊りにはヒターノ(フラメンコを生んだロマ族)の血そのものでした。手を上げるだけで圧倒的な踊りになる…衝撃でした。日本人の私が

4.13-14-16-17

### CJSフェスタ2009

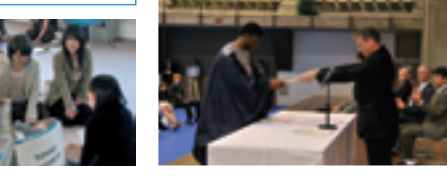
4月13日から17日にかけて、外国人留学生別科(CJS)生が日頃の学びの成果を発表するCJSフェスタが開催された。2009年春学期(1月～5月)には世界22の国・地域からの留学生が日本語と日本文化を勉強した。



5.23

### 外国人留学生別科 2008-2009修了式

外国人留学生別科2008-2009年修了式が5月23日、名古屋キャンパス体育館において行われ、ミカエル・カルマノ学長より85名に対して修了証が、37名に対して参加証が授与された。



いくら技術を磨いても越えられない壁を見た思いでした。フラメンコを続ける意味があるのが少し悩み日々が続きました。しかし、努力ではどうにもならないときに思い出す「あきらめ」という言葉が、このときも答えになりました。あきらめとは、断念するのではなく、それを不要と言える自分になること。意識を変えること。これは現学長のカルマノ先生の授業で出会った本の一節で、その後の私を変えた一言でした。ヒターノにはなれなくても思いを込めて踊ることはできる。フラメンコ自体、様々な文化を吸収して進化している。私は当時の教室を辞め、自分なりの探究をしようと思いました。その後はいい先生との出会いもあり、更に研鑽を積みながら私なりのフラメンコを探し続けています。

気づかずに撒かれた種が、後に意外な芽を出すこともある。大学時代はまさに種撒きの時期。明日の自分のために、たくさんの経験をしてください!





# 上南戦 第50回記念大会

—第50回 上智大学・南山大学総合対抗運動競技大会—

南山大学と上智大学の総合対抗運動競技大会が今年で第50回を迎えた。記念すべき大会の開催に向け、両校の学生を中心にさまざまな取り組みが実施された。その取り組みを本学の上南戦実行委員会の活動を中心にご紹介しよう。

## 上南戦のはじまり

南山大学と上智大学はともにカトリック修道会を設立母体とし、共通の教育理念を有していたことから本学設立当初から交流を持ち親睦を深めていた。そんな中、ある出来事が両大学学生会を結び付けることになる。それが1959年9月に東海地方を直撃した伊勢湾台風である。伊勢湾台風は東海地方に甚大な被害を及ぼし、その救助活動に奔走した南山大学学生会の代表は、東京で開催された全国キリスト教系大学連盟総会において被災見舞金を受領する。その際に対面した上智大学学生代表との間で大学対抗の定期戦開催の話を持ち上がり、このことがきっかけで今日の上南戦が始まったと言われている。

以後50年間、選手や競技種目が変われども一度も途切れることなく継続して実施されてきたのは、やはり両校が数少ない共学のカトリック系大学として共通の精神や理念をその根幹に持っていたからに違いない。

## 南山大学長・上智大学長メッセージ

上智大学・南山大学両校が、スポーツ対抗戦を通して半世紀に亘る交流を続けてきたことに誇りを感じると同時に、両校関係者をはじめ、これまで上南戦に携った皆様のご尽力に深く感謝を申し上げます。

上南戦は、カトリック系の大学として共通の教育理念を有する上智大学と南山大学が、長年に亘り交流を深めてきた象徴とも言うべき行事です。50年もの間、参加する学生や競技種目も変わらぬ精神で実施されてきました。これは上南戦が単なるスポーツ対抗戦ではなく、その根幹にある両校の共通の使命によるところが大きいでしょう。

その使命とは、キリスト教精神を基盤とするカトリック大学として協力し合い、日本の教育に貢献することです。このような共通性があるからこそ、上南戦は50年も続いてきたと確信しています。

上南戦を通じて両校の学生の間に培われた絆は、在学中はもちろん、卒業し社会に出て行ってからもきっと失われることなく生き続けてほしい。第50回の節目を実施メンバーとして参加する学生の皆さんには、先輩たちの築き上げた絆に感謝し、今後さらにこの絆を大きく発展させるためにも、上南戦を通じてたくさん交流を持っていただきたい。そしてその培った絆を胸に今後の人生を歩んでいってほしいと思います。

上南戦は、カトリックの大学として共通の教育理念を持つ上智大学と南山大学が、スポーツ競技を通じて交流を深めてきた伝統行事で、今年で第50回を迎えました。「ローマは一日にして成らず」の言葉どおり、両校の歴史にとって大きな半世紀であり、カトリックの大学という絆で結ばれた両校の連携の証しです。1960年の第1回大会はまさしく「ルビコン川を渡った」わけです。これまで上南戦に関わった皆さま一人ひとりの熱意と努力の結晶がこのようなかたちで実を結んだことに対して、深く敬意を表したいと存じます。

上南戦は、50年もの長きに亘り、現在では約30種目ものさまざまなスポーツ競技を通じて勝敗を争う大会ですが、その根底には、両校そして学生たちの「志」が込められています。それは、勝敗を超えて相手の立場を思いやり、また相手から受けたその思いやりに報いる気持ちを表すというカトリックの大学らしい「志」です。同じカトリックの大学において、他者を思いやる奉仕の精神を持つことは共通するところ。そういった「志」があったからこそ、上南戦による交流を続けることができたのだと思います。そしてこれからは、皆さんがこの伝統行事の継承者として、上南戦の「志」を後輩たちに伝えていってください。

# 絆

# 志

上南戦は一日にして成らず50年と多くの努力の積み重ね

## 上南戦実行委員会

上南戦第50回記念大会に向け、さまざまな取り組みを実施したのが、上南戦実行委員会のメンバーである。彼らは体育会・文化会の各団体に所属し、上南戦の勝利に向け練習に励みつつ、上南戦全体の成功に向け実行委員としての活動も行ってきた。

今回の上南戦において実行委員会が特に重視したのが、新入生をはじめとした在学学生に上南戦を知ってもらうことだ。そのために実行委員会では、さまざまな取り組みを企画し、早朝から正門に立ち上南戦のクリアファイルを配って呼びかけるなど積極的な活動を行った。



## 全学的行事を目指して

今回の上南戦で新たな取り組みとして注目されたのが文化系団体の参加である。近年の上南戦は体育会各団体の対抗試合を中心としており、体育会に所属しない学生の参加意識は低かった。しかし、今大会を第50回記念大会として実施するにあたり、全学的な一体感を持たせるために文化系団体への積極的な参加の呼び掛けが行われた。その結果、従来から交流のある管弦楽団、吹奏楽団、E.S.S.に加え、上智大学フォークソング愛好会と南山大学音楽系5団体による合同ライブ、両大学写真部・写真サークルによる合同写真展、上智大学法律サークル「青法会」と南山大学「N.L.D.～法律学研究会～」による合同法律勉強会など、文化系団体による交流イベントが実現した。



## 上南戦フロア

新入生歓迎イベントであるフレッシュマン祭に合わせて名古屋キャンパスに開設されたのが上南戦フロアだ。学生会館1階(旧第一食堂)のスペースに、これまでの上南戦の写真や歴代上南戦Tシャツの展示、前大会のビデオ上映のほか、体育会各団体の協力による、手作りのPRパネルや部旗の展示などが行われた。体育会各団体を象徴する部旗が掲げられたそのスペースは、上南戦の情動的役割を果たすと同時に、先輩から後輩へと引き継がれてきた南山の誇りを示す空間となった。

またフレッシュマン祭の期間中、グリーンエリアでは本学音楽系団体5団体(軽音楽部・アメリカ民謡研究会・N.A.Q.・Hello MUSIC・NK type S)による「プレ上南フェス」が開催され、新入生に向けて音楽を通じた上南戦の告知が展開された。



## 上南戦弁当・上南戦ランチ

上南戦フロアでも販売されたのが、実行委員会企画の一つ「上南戦弁当」だ。これは、「学生生活にランチは欠かせない」という学生ならではのアイデアで企画されたもので、ボリュームのある3種類のお弁当(上南戦クリアファイル付)が380～400円で販売された。また食堂では、新しいメニューとして上南戦ランチが提供された。これらは、上南戦実行委員のアイデアと食堂の皆さんの学生を応援したいという温かい気持ちの賜物と言えるだろう。

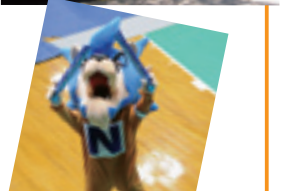
## ラッピングスクールバス

上南戦情宣活動の目玉ともなったのが、スクールバスのラッピングだ。本学では、名古屋・瀬戸両キャンパス間にシャトルバスを運行しているが、そのバスに上南戦第50回記念大会の開催を表すラッピングを施した。鮮やかな南山カラー(NANZANライトブルー)で染められたシャトルバスは、南山関係者はもちろん、街中の車や行き交う人々の目も引いたことだろう。(ラッピングバスは7月24日まで運行予定。)



## 体育会公認キャラクター

ラッピングバスにも描かれていたのが、今大会をきっかけに生まれた南山大学体育会公認キャラクター「ライオン」だ。ライオンがモチーフになっており、南山カラー(NANZANライトブルー)が配された燃え上がる炎のような姿に鋭い目つき、今にも飛びかかってきそうな動きのあるその姿は、百獣の王らしい勇ましい様相だ。上南戦当日には、男子バスケットボール、女子バレーボールなどの試合会場に着ぐるみが登場し、闘いに挑む選手たちを奮い立たせていた。



## 上南戦グッズ

上南戦では、毎年さまざまな応援グッズが製作されるが、今年は定番のTシャツやマフラータオル、ボールペン、シャープペンシル、うちわのほか、スポーツ観戦の新定番となりつつある、スティックバルーンやフレックスフラッグなどが製作された。スティックバルーンとフレックスフラッグは開会式が行われた代々木体育館でも来場者に配られ、応援席が南山カラーで染まった。



## 上南戦本番レポート

### 結団式

5月13日名古屋キャンパス体育館において結団式が開催された。部旗の入場の後、挨拶に立った青木清教学担当副学長からは、「1.第50回の記念大会に参加できる幸せを満喫すると同時に、50年にも亘って大会作り上げてきてくれた先輩、関係者の人たちに感謝をして欲しい。2.上南戦を通じての出会いには皆さんのこれからの人生をきっと豊かにしてくれるはず。そのような場に参加できることを感謝してほしい。3.必ず勝利を手にして欲しい。」と上南戦に臨む3つの心構えについて語られた。また、森山幹弘学生部長からは、「今日は我々が1つの団体として一致団結して勝利を目指す、意志統一を図る機会です。選手皆さんもこの結団式の空気を心に入れて南山大学に勝利をもたらしてください。」と結団式を行う意味について語られた。

これに対し、学生を代表して丹羽正幸体育会執行委員長からは、「南山の南山による、そして南山のための上南戦を我々が作り上げていきましょう。Yes, we can.」と上南戦に向けた力強いメッセージが示され、会場の盛り上がりは最高潮に達した。



### 開会式・オープニングゲーム

今年の開会式は第50回を飾るにふさわしいすばらしい舞台が用意された。バスケットボールの聖地ともいわれる国立代々木競技場第二体育館がその舞台となったのだ。

開会式では、南山大学スコラ・カントーレムと上智大学聖歌隊の聖歌斉唱に始まり、両校上南戦実行委員長によるペナントの交換、両校応援団によるエールの交換、チアリーダーズ・アトラクション、男子バスケットボール部主将による選手宣誓など、スポーツ対抗戦らしい華々しいものとなった。大会会長挨拶に立った上智大学の石澤良昭学長は、「記念すべき第50回の上南戦を開催できることは、両大学の歴史にとって大きな足跡であり、カトリック大学という糸に結ばれた両大学連携の証である。」と上南戦の持つ意味について述べられた。また、南山大学学生歌と上智大学校歌を例に、「どちらの歌詞も闘う決意がみなぎっています。勝利するのに必要なのは、それを成し遂げようとする決意です。その決意こそが勝利の条件なのです。どうか勝利に向けてがんばってください。また、今大会をきっかけに互いの友情を深め、地域社会、名古屋と東京、さらに日本、そして全世界へ、文武両道をもって貢献していただきたい。」と今大会に決意を持って臨んで欲しいとの期待感が語られた。

オープニングゲームとして行われた男子バスケットボールはそんな期待に応える熱い試合となった。

序盤試合を制したのは南山大学。初得点こそ上智大学に許したが1本シュートが決まってからは南山ペース、ダブルスコアのリードをした。ところが、上南戦男子バスケットボール4連覇と自力で勝る上智。徐々にゴール下を支配するようになり、連続ポイントであったという間に同点、そして逆転され、前半を終わって30対22で上智リード。後半も前半の流れをそのままに上智のペースで進む。このままではワンサイドゲームかと思われたが、南山もスリーポイントシュートが決まるようになり徐々に追い上げる。最終的には73対57で上智の勝利で終わったが、最後まで勝利に向け、選手と応援席が一体となったすばらしい試合が展開された。



## 総合成績・各競技の結果

総合優勝 **上智大学**  
18勝14敗0分  
総合準優勝 **南山大学**

サッカー 南山 1 - 4 上智

柔道 南山 4 - 3 上智

洋弓 男子 南山 3497 - 3286 上智  
女子 南山 2086 - 2109 上智

アイスホッケー 南山 2 - 8 上智

バレーボール 男子 南山 0 - 3 上智  
女子 南山 3 - 0 上智

ラグビー 南山 12 - 30 上智

卓球 南山 2 - 4 上智

バドミントン 男子 南山 2 - 3 上智  
女子 南山 2 - 3 上智

剣道 男子 南山 4 - 1 上智  
女子 南山 4 - 0 上智

硬式庭球 男子 南山 4 - 5 上智  
女子 南山 2 - 5 上智

スキー 南山 6 - 18 上智

野球 硬式野球 南山 6 - 3 上智  
準硬式野球 南山 3 - 1 上智

バスケットボール 男子 南山 57 - 73 上智  
女子 南山 83 - 50 上智

軟式庭球 男子 南山 5 - 1 上智  
女子 南山 3 - 0 上智



陸上競技 南山 132.5 - 102.5 上智

水泳 南山 241 - 301 上智

ハンドボール 男子 南山 91 - 76 上智  
女子 南山 43 - 51 上智

ヨット 南山 0 - 2 上智

ゴルフ 南山 43 - 19 上智

## 上南戦第50回記念大会広報活動

### 新幹線セットパネル

大学戦略広報の一環で、東海道・山陽新幹線主要13駅構内に、上南戦第50回記念大会を告知する大型壁面広告を掲出した。鮮やかな南山カラー(NANZANライトブルー)をベースに競技する選手を大きく配したこのデザインは、南山・上智両大学関係者のみならず多くの人の目を引き付けた。

掲出期間: 2009年3月1日～31日  
掲出場所: 東海道・山陽新幹線主要13駅(東京・小田原・静岡・浜松・豊橋・名古屋・京都・新大阪・新神戸・岡山・広島・小倉・博多)

### ポスター

新幹線セットパネルのデザインを使用したポスターに加えて、学生のデザインによるポスターが製作された。学生のデザインによるポスターは、50年間の歴史の1ページを飾った過去の上南戦の写真とともに、「この勢い止まらない」というコピーが配られ、昨年の総合優勝に続く連勝を目指す南山大学の意気込みが表れたものになった。

2種類のポスターは、上南戦実行委員の手により名古屋・瀬戸両キャンパスに提出された。

### 学長対談新聞広告

上南戦50年の歴史で初めて実現したのが、南山・上智両学長の対談広告だ。今回は会場校が上智大学ということもあり、読売新聞(東京本社版・中部支社版)朝刊に全面広告を掲出した。

紙面では、上南戦の持つ意味について両学長の言葉で語られ、両大学がカトリックの強い絆で結ばれており、その絆の象徴が上南戦であること。また、両大学の教育理念の根幹にある奉仕の精神と人間の尊厳の問題が、現代の激動する社会において今まさに問われており、両大学をはじめとしたカトリック大学の存在意義が大きくなっていることが語られた。

掲載日: 2009年5月31日(日)  
掲載紙: 読売新聞(朝刊)東京本社版、中部支社版全面広告

### 上南戦特設Webページ開設

上南戦第50回記念大会に合わせて、特設Webページを開設した。上南戦の歴史・沿革、過去の戦績に加え、卒業生から寄せられた上南戦にまつるこぼれ話のコーナー、上南戦の写真を集めたフォトミュージアム、第7回大会(1966年開催)の記録ビデオをおさめたムービーミュージアムなどが展開されている。またマルチメディアクラブの学生による動画コーナーもあり、ここでは、上南戦に臨む選手たちへのインタビューの様が見られる。

